

新たな漆芸技法の提案

切り絵を用いた装飾について-姫卯木切絵文料紙箱-

A2201515 佐藤 暁

研究の背景

この研究は切り絵と漆を組み合わせた作品を研究・制作を行います。研究背景としては、この学校に入学してから1年余り学んだ漆。そして、高校時代から制作し続けてきた切り絵を組み合わせることにより、漆芸技法として表現できないかと考えたことが始まりです。私は卒業後も漆芸制作を学ぶため、新たな漆芸技法を提案することも大切ではないかと考えます。そのためのひとつとして切り絵と漆を用いた新たな表現についての研究をテーマとして考えました。

研究の目的

切り絵と漆を組み合わせた新たな表現を作り出します。新たな漆芸技法の確立により、変わり塗りや装飾として活用できる技法を研究し、作品を制作します。

研究のプロセス

1. デザインの決定まで

必要条件の決定→大きさ、形を検討→アイデアスケッチ→デザイン決定

2. 箱の制作

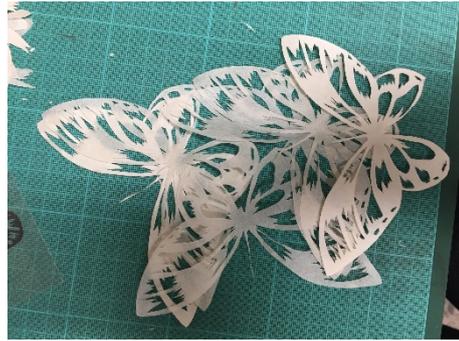
木地を制作→石油を混ぜた漆で木固め→漆で麻布を貼り付ける(外側)→麻布の目を埋める→内側に蒔地で下地付けする→外側を下地→角を立たせるために追い錆び→合わせ蓋の隙間を無くすため追い錆び→固め→捨て塗り→下塗り～上塗り



↑ 布着せ

3. 切り絵の制作

文庫のイメージに合ったモチーフの考案→モチーフの決定→アイデアスケッチ→デザイン完成→切り絵の制作



4. 箱に切り絵の装飾を行う

中塗りまで行った箱に切り絵を漆で貼り付ける→重ねて切り絵を貼り付ける→漆塗りを重ねる→研ぎだして文様を表す→仕上げ→完成

成果物

切り絵の装飾を行った印籠蓋づくりの料紙箱です。切り絵をテクスチャとして使用しました。現代の料紙箱・文庫ということで A4 サイズの用紙が入る大きさに制作しました。

考察とまとめ

印籠蓋づくりの箱を制作することは初めてでしたが、布着せや下地の工程に難しさがありました。印籠蓋の身と蓋の合わせ面の調整にとっても苦労しました。漆芸はひとつの作業でも仕立が悪かったり適当に行ってしまうと、のちの作業に影響してきます。如何なる作業でもしっかりと行わなければならない事の大切さを痛切に感じました。また、今回の研究では切り絵を用いた漆芸技法の提案がメインでした。箱の制作だけではなく切り絵をどのように貼り付けるか、どうすれば切り絵を綺麗に見せることができるかという実験も行いました。



実験用の手板、切り絵の制作、切り絵塗りに適した和紙の厚みや材質の検討、そして切り絵を漆で密着させる方法など実験に時間を取り過ぎてしまい最終成果物の料紙箱の制作に取り掛かるのが遅くなってしまったのが反省点です。

今回の研究だけでは終わらずに、今後も切り絵、漆芸の技術向上を心がけ、この漆芸表現を用いた新たな漆器の提案や作品の制作を行っていきたいと考えます。